

健診部



健診部長
前川 高天

専門医資格等 日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員
日本内科学会認定内科医
日本ヘリコバクター学会 H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医

専門分野 消化器内科一般
得意疾患 消化管疾患

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	小坂田元太	日本循環器学会認定循環器専門医・近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医・指導医 日本超音波医学会 超音波専門医・超音波指導医	循環器内科学、超音波医学	循環器内科学、超音波医学
医師	金崎 幹彦		循環器内科	循環器内科学

□ 診療科の特徴

1. より迅速に、よりの確な健診を心がけています。

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査が迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています。(コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります。)また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的での確な診断が可能になっています。

2. “点”から“線”の健診へ

従来の結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より確実な早期発見を目指して

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、癌に対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検査の試みも始まっています。当センターでは、子宮がん検診に、子宮頸がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を導入し、より確実な診断に努めています。

4. より“やさしい”検査へ

胃がんの早期発見には内視鏡検査(胃カメラ検査)の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって“つらい”検査から“楽な”検査への転換を図っています。

□ 診療(業務)内容

基本コース(一般コース・脳ドック・レディースコース)に加えて、各種オプション(肺:胸部CT検査、婦人科:診察・US、乳がん:US/MMG など)を受診者の希望に応じて実施しています。

□ 診療実績(平成24年度)

基本健診

	総受診者数	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	乳癌
2011年度	992	891	8	26	26	36
2012年度	844	764	11	27	30	12

オプション

	脳	肺がん	動脈硬化	乳がん	子宮癌	骨粗鬆症
2011年度	137	48	94	169	157	102
2012年度	118	48	94	183	140	101

	前立腺	血液流動性検査	胃透視件数	内視鏡件数	胃がん発見数	内早期胃癌数
2011年度	199	21		891件	4件	3件
2012年度	161	36	256件	764件	3件	3件

全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究(H23-医療-指定-023)

【はじめに】

サリドマイド胎芽病者は壮年期を迎えており、様々な疾患を続発しつつある。現在は個別に医療機関を受診しているが、上肢欠損ないし低形成者は採血が困難、血圧の測定方法が決まっていないなどの問題点がある。平成23年度から国立国際医療研究センターを中心に始まった今回の研究では、診療上の注意点など含めた「診療ハンドブック、Q & A」を作成し、胎芽病者が医療機関に提示できるようにすることが目的とされている。平成24年度は日帰り人間ドックを受けることが可能な30名を対象として、国立国際医療研究センター病院、帝京大学病院、京都医療センターで健診を実施した。前年度の健診結果から重点的に検査すべき項目として側頭骨CTと頸椎の評価を選定し、オプションとして健診項目にを加えている。京都医療センターの上部消化管内視鏡検査は前川診療部長が経鼻でおこなっている。京都医療センターでの受診者は、京都から2名、大阪から5名、奈良、香川、熊本から各々1名の計10名であった。

□ 地域医療連携・広報活動

F M 8 4 5 からだ元気 新しい胃がん検診 2011年12月14日

前川高天:基調講演 京都医療センターにおけるピロリ菌除菌療法の現状 第4回深草消化器医療連携の会
2011年8月27日 京都

□ 講義・講演

演者・演題・学会名
前川高天 パネルディスカッション 胃粘膜萎縮を考慮してこれからのH.Pylori感染症診療の課題 Scientific Exchange Meeting 2013 in Kyoto

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

演者・演題・学会名
北岡修二、前川高天:人間ドックにおける経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第77回日本消化器内視鏡学会総会、2009年5月23日 名古屋
北岡修二、前川高天:胃がん検診における経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第78回日本消化器内視鏡学会総会、2009年10月17日 京都
北岡修二:経鼻内視鏡検査の現在～Pros and Cons～第14回経鼻内視鏡研究会in関西、2010年4月10日 大阪

北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査の受容性に影響する受検者因子の臨床的検討、第80回日本消化器内視鏡学会総会、2010年10月16日 横浜
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第1回経鼻内視鏡研究会 2011年8月19日 名古屋
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第82回日本消化器内視鏡学会総会 2011年10月21日 福岡
北岡修二、前川高天：胃がんリスク検診における経鼻内視鏡検査の有用性、第51回日本消化器がん検診学会総会 2012年6月1日 熊本
北岡修二、前川高天：極細径内視鏡検査における適切な画像設定の重要性、第2回胃細径内視鏡研究会 2012年6月2日 熊本

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
消化器の臨床 15:147-150 (2012)	原田直彦、姉ヶ尾佳奈、前川高天、他：クロピドグレル服用患者における上部消化管出血の現状
消化器がん検診学会誌 51:213-221 (2013)	勝島慎二、北岡修二、前川高天、他：新しい胃癌リスク評価の考え方